

THREEUP

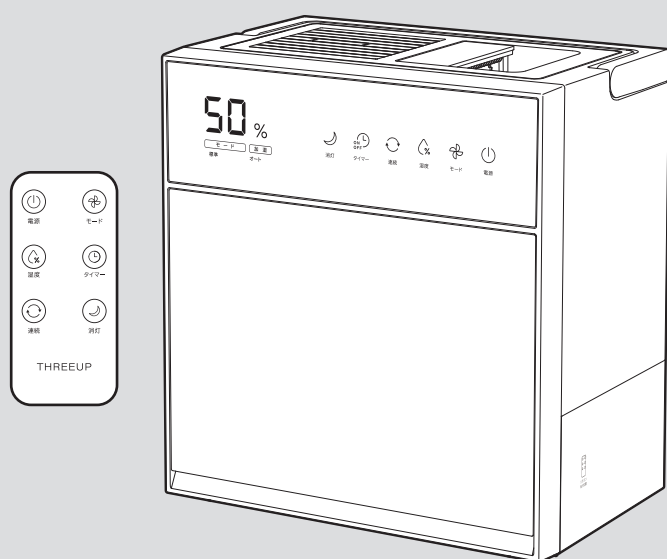
THREEUP

ハイブリッド加湿器

「グランリュクス」HBシリーズ

HB-T2268

取扱説明書



本製品は日本国内専用です。

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用ください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してご利用ください。

目次

はじめに

安全上のご注意	1～3
各部のなまえ	4～5
パッケージ内容	5
別売品	5
仕様	5

ご使用の前に

知っておいていただきたいこと	6
設置について	6
水タンクに水を入れる	7
リモコンについて	8

ご使用方法

運転する	9
停止する	9
運転モードを切り替える	10～12
湿度を設定する	13～14
オフタイマーを設定する	15
オンタイマーを設定する	16
消灯モードを設定する	17
水タンクの水がなくなると	17

点検・サービス

お手入れと保管方法	18～20
コンセントの点検	20
故障かな?と思ったら	21
保証・サービス	22

はじめに

安全上のご注意

火災、感電、ケガなどの事故を未然に防ぐため、ご使用前によくお読みのうえ、正しく使用してください。

また、各部に破損や亀裂、変形などの損傷がないことをよく点検してください。

■ 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があるもの。	 注意	誤った取り扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。
--	-----------------------------------	---	---------------------------------------

■ 図記号の意味は次のとおりです。

   	この図記号は「禁止」されている内容です。	 	この図記号は必ずお守りいただく「指示」内容です。
--	----------------------	---	--------------------------

警告



分解禁止

分解や修理、改造をしないでください。
火災、感電、故障、ケガの原因になります。
分解や修理をしないでください。



プラグを抜く

長時間ご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
絶縁劣化による火災、感電の原因になります。



水ぬれ禁止

浴室などの湿気の多い場所、水のかかる場所では使用しないでください。
本体やリモコンを水につけたり、水をかけたりして丸洗いはしないでください。
感電、火災、故障の原因になります。



禁止

お子様だけで使わせしないでください。
感電やケガ、事故の原因になります。

屋外や直射日光の当たる場所で使用しないでください。
絶縁劣化による感電、漏電、火災、故障の原因になります。

高温になる場所や湿気やホコリの多い場所に放置、保管しないでください。
動作異常のおそれがあり発煙、発火の原因になります。

火気に近づけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
本体の変形によるショート、発火の原因になります。

吹出口から給水しないでください。
故障や感電、水漏れの原因になります。



禁止

吹出口や吸気口、すき間にピンや針金などの異物を入れたり、ふさいだりしないでください。

- ・ケガや事故の原因になります。
- ・過熱による本体の変形、発火の原因になります。

ミストを故意に吸入しないでください。
健康を害する原因になります。

延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは使用しないでください。
コンセントや電源プラグ、電源コードが異常発熱し、発火するおそれがあります。

引火性のもの（殺虫剤、ヘアスプレー、ガソリン、ベンジン、シンナー）の近くで使用しないでください。
また、本体に向けて吹きかけないでください。
爆発や火災の原因になります。

乳幼児の手の届くところにボタン電池を置かないでください。
ボタン電池を誤飲する原因になります。
万一、誤飲した場合はすぐに医師にご相談ください。

ボタン電池を火の中に入れたり、水に濡らしたりしないでください。
また、分解や加熱をしないでください。
破裂や発熱の原因になります。



必ず守る

電源は必ず家庭用100V電源で使用してください。
異なる電圧での使用は故障、火災の原因になります。

警告

電源プラグにホコリが付いている場合は、きれいに拭き取ってください。

ホコリがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

電源コードと電源プラグを取り扱うときは、次のことを守ってください。

- 乱暴に扱ったり、重いものをのせたり、機器に挟み込んだりしないでください。
- 損傷したものは使用しないでください。
- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。
- 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っ張らず、電源プラグを持って抜いてください。
- 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。
- 破損した場合は、スリーアップカスタマーサポートまでご相談ください。



必ず守る

長時間リモコンを使用しないときは、ボタン電池をリモコンから取り出してください。

- 消耗したボタン電池を入れたままにしておくと、液漏れや腐食により、リモコンが故障する原因になります。
- 液漏れを起こした場合は、液に触れないように注意し、すぐに電池を取り出してください。
- 漏れた液が体に付着した場合はよく洗い流してください。万一、液が目に入った場合はすぐに多量の水で洗い流し、医師にご相談ください。

ボタン電池を保管、廃棄する際は、電極(+/-)にセロハンテープなど絶縁性のテープを貼ってください。

- 複数のボタン電池が重なり合うと、一方のボタン電池が導線として働き、電極がショートして破裂や発熱を引き起こし、火災につながるおそれがあります。
- 廃棄する際は、お住いの市町村の指示に従って廃棄してください。
- ヘアピンやコインなどの導電物と一緒に保管したり、持ち運んだりしないでください。
- 高温になる場所(屋外、直射日光の当たる場所、ストーブやガスコンロの近くなど)に保管しないでください。



必ず守る

包装用のポリ袋はお子様の手の届かない場所に保管してください。

誤ってかぶると窒息による死亡の原因になります。

異常時や故障時は、直ちに使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜いてください。

《異常/故障例》

- 電源を入れても運転しないときがある。
- 電源コード、電源プラグが触ることができないほど熱い。
- 焦げ臭いにおいがする。
- 運転中に異音がする。

その他異常と思われるときは、使用せずにスリーアップカスタマーサポートまでお問い合わせください。



接触禁止

運転中または運転停止直後は、超音波振動板やヒーター部に触れないでください。やけどの原因になります。

注意



禁止

本機は家庭用です。業務用として使用しないでください。
故障の原因になります。

家具や壁、カーテンにミストが直接当たる場所には設置しないでください。
シミや汚れの原因になります。



禁止

テレビやパソコン、オーディオ機器などの近くに設置しないでください。
結露による故障や雑音が入る原因になります。

注意

踏み台にしたり、腰掛けたり、もたれかけたりしないでください。

また、製品の上に物を置かないでください。転倒、破損によるケガや事故の原因になります。

高所や足元が不安定な場所では使用しないでください。

水平で安定している場所に設置してください。斜面など不安定な場所に設置すると、転倒により水が漏れて周囲を濡らす原因になります。

また、高所から落下すると、ケガや破損の原因になります。

水タンクと本体(水そう部)の水が凍結するような場所では使用しないでください。故障の原因になります。

薬品などの周囲では使用しないでください。本体のプラスチック部品が劣化し、破損するおそれがあります。

湿度の高い場所(75%以上)では使用しないでください。

家具や壁を湿らせ、雑菌やカビが繁殖し異臭や故障の原因になります。

運転中は移動させたり、傾けたりしないでください。

水漏れや故障の原因になります。運転を停止して電源プラグをコンセントから抜き、水タンクと本体(水そう部)の水を捨ててから移動してください。

常温の水道水以外は使用しないでください。

- 浄水器の水、アルカリイオン水、ミネラルウォーター、井戸水などはカビや雑菌が繁殖しやすくなります。
- 40℃以上のお湯や化学薬品、汚れた水、芳香剤、洗剤、アロマオイルを入れた水などは、製品の変形、故障の原因になります。

お手入れには台所用中性洗剤以外は使用しないでください。

塩素系/アルカリ系の洗剤や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

ボタン電池を素手で取り扱わないでください。

- 電極(+/-)を素手で同時に触ると、一気に放電して、消耗を早める原因になります。
- 汗や手油などが付着すると、接触不良の原因になります。

本機の性能を維持するため、定期的にお手入れをしてください。

「お手入れと保管方法」に従ってお手入れをしてください。汚れがひどくなると、発熱や故障の原因になります。

水タンクと本体(水そう部)の水は毎日新しい水道水と入れ替え、常に清潔に保つよう定期的にお手入れしてください。

水を入れ替えずに長時間使用すると、雑菌やカビが繁殖して異臭や健康を害する原因になります。

長時間使用しない場合や、お手入れ、保管の際は、水タンクと本体(水そう部)に残った水を捨ててください。

- 水タンクと本体(水そう部)に水が入ったままでお手入れをすると、水が漏れて周囲を濡らす原因になります。
- 水タンクと本体(水そう部)に水が入ったまま保管すると、雑菌やカビが繁殖し異臭の原因になります。

ボタン電池は電極(+/-)の向きに十分注意して装着してください。

正常に動作しない原因や、リモコンの故障の原因になります。

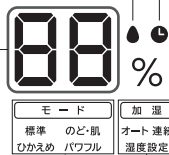


各部のなまえ

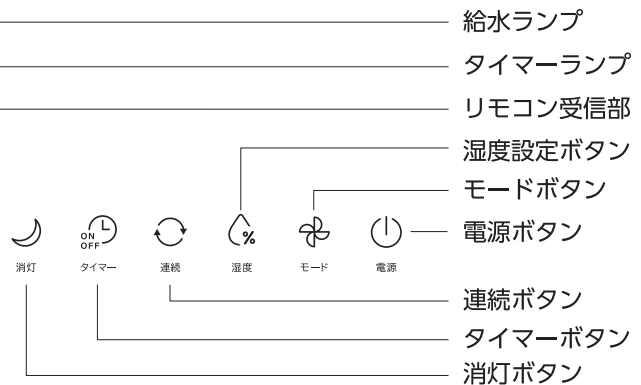
■ 本体

表示/操作部

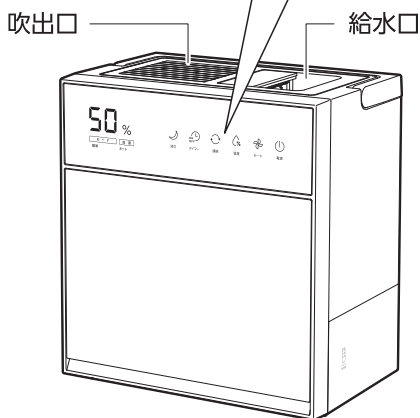
ディスプレイ
湿度とタイマーの設定時間
を表示します。
%は湿度表示時のみ点
灯します。



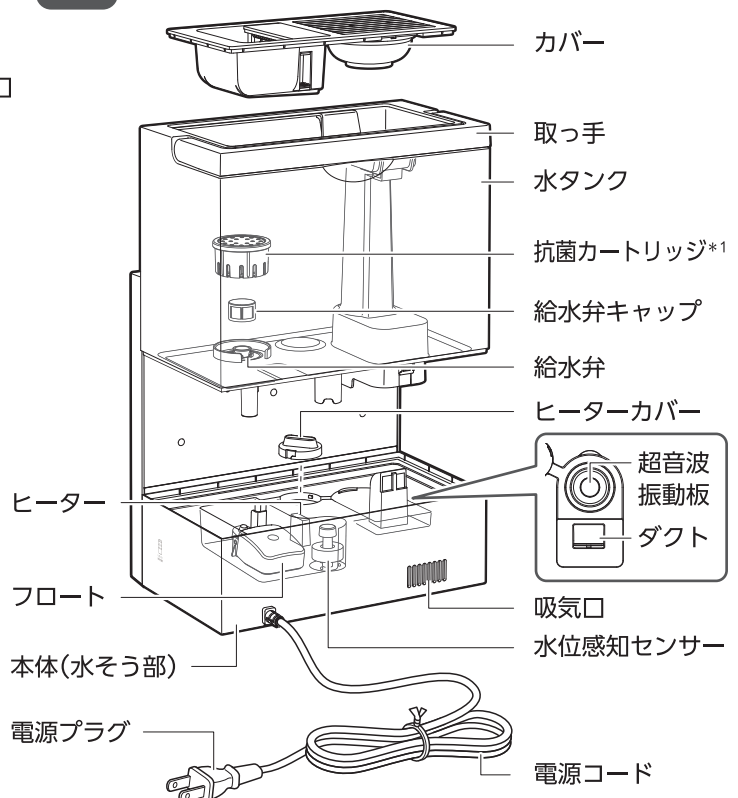
モードランプ
加湿ランプ



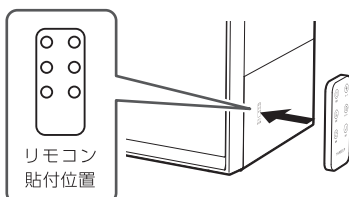
正面



背面



リモコン収納部



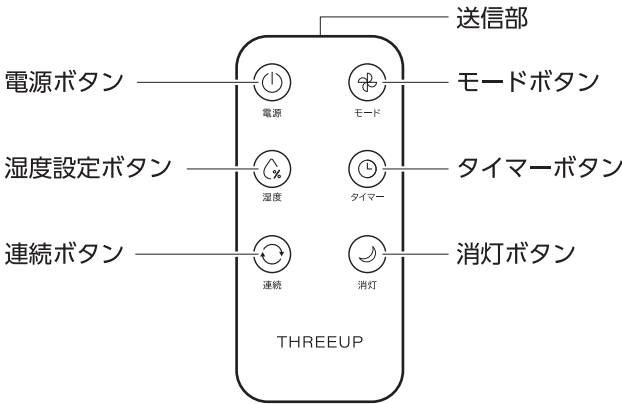
「リモコン貼付け位置」のイラスト
部にリモコンを取り付けることが
できます。

*1 カートリッジ内部のセラミックボールが水タンク内の雑菌の
繁殖を防ぎ、浄化します。

はじめに

■ 付属品

● リモコン



パッケージ内容

梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、スリーアップカスタマーサポートまでご連絡ください。

部 品 名	個数	部 品 名	個数
本体	1	取扱説明書（保証書付き）本書	1
リモコン（CR2025電池内蔵）	1	抗菌カートリッジ	1

別売品

下記の別売品または付属品をお買い求めの際は、スリーアップカスタマーサポートまでご連絡ください。

部 品 名	個数	商品単価（税込）
抗菌カートリッジ	1	1,320 円

※ 上記の費用以外に、送料と代引き手数料がかかります。

仕様

本体サイズ	幅28.5×奥行18×高さ30.5cm	本体重量	約3 kg
材質	ABS、PP	電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	118W（パワフル）、103W（のど・肌）、35W（標準）、25W（ひかえめ）	タンク容量	6.0 L
運転モード	標準、のど・肌、パワフル、ひかえめ、湿度設定：40～75%（5%単位）	加湿量	500 mL/h（パワフル）、350 mL/h（のど・肌）、270 mL/h（標準）、150 mL/h（ひかえめ）
連続運転時間	約11時間（パワフル）～約36時間（ひかえめ）	オン・オフタイマー設定	1～9時間（1時間単位）
加湿方式	ハイブリッド（超音波＋PTCヒーター）	適用床面積（目安）	14畳（洋室、プレハブ）、8.5畳（和室、木造）
機能	消灯モード	安全装置	温度ヒューズ、水位感知センサー
コード長	約1.5 m	—	—

※ 商品は改良の為、仕様・外観など予告なく変更する場合があります。
※ 加湿量や適用床面積（目安）は、使用環境により異なります。

ご使用の前に

知っておいていただきたいこと

■ 加湿方式について

- 標準、ひかえめ運転時の加湿方式 … 超音波式
超音波振動板によって水をミスト（霧状）にして、ファンで空気中に放出して加湿します。
- のど・肌、パワフル運転時の加湿方式 … 超音波式+ヒーター式
本体（水そう部）の水をヒーター部で加熱して加湿量を増やします。
ヒーター部周囲、本体（水そう部）の水は高温になりますので、触らないでください。

■ 周囲湿度表示について

- 周囲湿度は、本体に内蔵されているセンサーが感知する温度と湿度になります。
- 設置場所や使用環境などにより、表示される湿度と部屋の湿度計が異なる場合があります。
湿度表示は目安としてご使用ください。

■ 水漏れについて

- ご使用の環境によって、まれに水漏れが起こる可能性があります。
 - 水温0～6℃（厳冬時に注意）
 - 暖房器具の近くで使用
- 床に水タンクを落下させた場合や衝撃を与えた場合に水タンクの接合部に小さな亀裂が入り、水漏れを起こす場合がありますので、取扱いにはご注意ください。

■ 抗菌カートリッジについて

抗菌カートリッジの内部には、雑菌の繁殖を防ぐためのセラミックボールが入っています。
約6か月に1個を目安に、新しい抗菌カートリッジと交換してください。
週に2回以上すすぎ洗いをしてお手入れを行ってください。

■ ガスコンロの炎が赤やオレンジになる現象について

水道水に含まれるカルシウムや微量のアルカリ金属がガスコンロの炎と反応したためです。
窓を開け、換気しながらご使用ください。

■ 本体（水そう部）の汚れについて

本製品を長く使用すると、本体（水そう部）やヒーター、超音波振動板に汚れや白い粉が付着します。
これらは水に含まれているミネラル分やカルキ、銩物成分などが結晶として現れるものです。
加湿性能の低下や故障の原因になりますので、定期的にお手入れを行ってください。

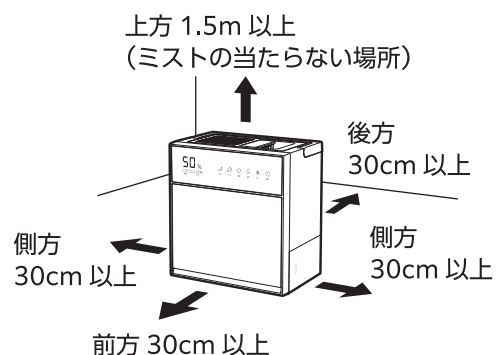
設置について

■ 設置条件

- 製品の周囲は右図で示した距離を空けてください。
- 斜面や毛足の長い敷物の上など、不安定な場所には設置しないでください。

■ 安全装置

異常な温度上昇を感知した場合は、温度ヒューズが作動し、回路を遮断する場合があります。
その場合は温度が下がっても運転は再開できません。



ご使用の前に

水タンクに水を入れる

⚠ 注意



必ず守る

- 必ず水道水を入れてください。
一般に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。
- 水タンクと本体(水そう部)の水は毎日新しい水道水と入れ換え、常に清潔に保ち、定期的にお手入れしてください。
お手入れをせずに使い続けると、カビや雑菌が繁殖し、悪臭の原因になります。
体質によっては、過敏に反応し、健康を害する原因になります。



禁止

次のような水は水タンクと本体(水そう部)に入れないでください。

- 浄水器の水、アルカリイオン水、ミネラルウォーター、井戸水などはカビや雑菌が繁殖しやすくなります。
- 40℃以上のお湯や化学薬品、汚れた水、芳香剤、洗剤、アロマオイル、エッセンシャルオイルを入れた水などは、製品の変形、故障の原因になります。

給水について

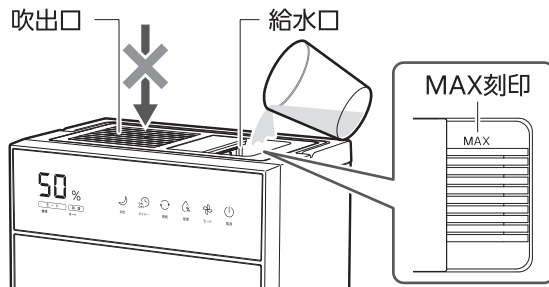
給水方法は、本体に取り付けたままで水タンクに直接給水する方法と、水タンクを取り外してから給水する方法があります。

カバーの給水口または水タンク内にある「MAX」刻印を超えて水を入れないでください。

■ 水タンクに直接給水する場合

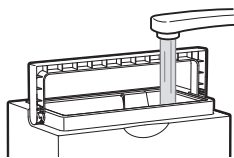
カバーの給水口から常温の水道水を入れます。
コップなどに水を入れ、カバーの給水口から注ぎ入れてください。

吹出口に水を入れないでください。
水漏れや故障の原因になります。

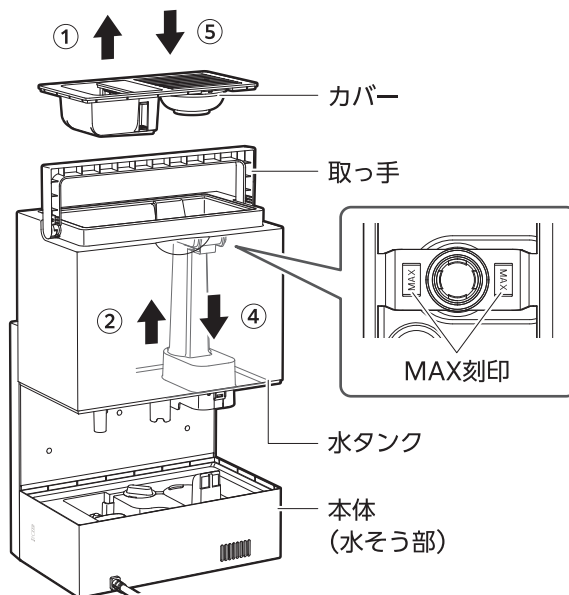


■ 水タンクを取り外して給水する場合

- ① 水タンクからカバーを取り外します。
- ② 本体から水タンクを取り外します。
水タンクの取っ手を持って取り外してください。
- ③ 水タンクに常温の水道水を入れます。
洗面所やお風呂場などで給水してください。



- ④ 本体に水タンクを取り付けます。
水タンクの取っ手を持って取り付けてください。
- ⑤ 水タンクにカバーを取り付けます。



リモコンについて

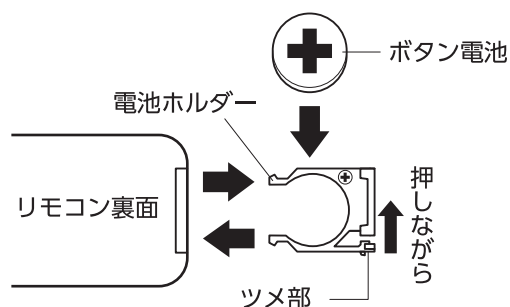
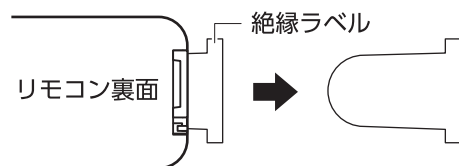
工場出荷の段階でボタン電池が装着されています。
ご使用前に絶縁ラベルを引き抜いてください。

※製品に付属しているボタン電池はテスト用のため、
早く消耗する場合があります。

■ ボタン電池の交換方法

使用するボタン電池は「CR2025」です。

- ① リモコン裏面の電池ホルダーのツメ部を、
矢印方向に押しながら引き抜きます。
- ② 新しいボタン電池の【+】を上にして装着
します。
- ③ 電池ホルダーをしっかりと奥まで差し込みま
す。

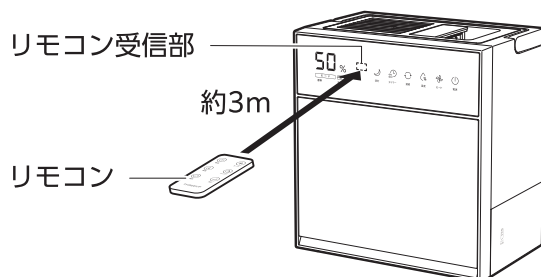


■ 操作範囲

リモコンの送信部を本体のリモコン受信部
に向けて使用してください。操作距離は直線で
約3mです。

テレビやオーディオのリモコン等を使用した際、
まれに本体が反応して動作することがあります。
これは本製品と同じ周波数を利用している機器で
起きる現象です。

そのような場合は本体に影響しない場所でご使用
ください。

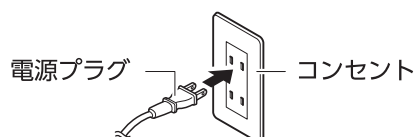


ご使用方法

運転する

■ 運転のはじめかた

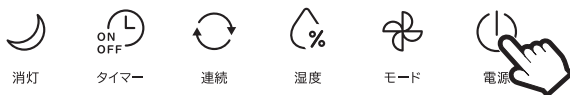
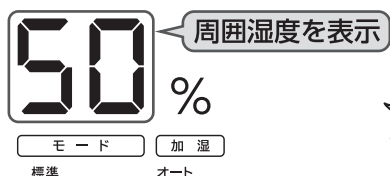
- ① 電源プラグをコンセントに差し込みます。
“ピッピッ”と電子音が鳴り、待機状態となります。



- ② 本体またはリモコンの『電源』ボタンを押すと運転を開始します。
- 本体またはリモコンのボタンを押したときは、“ピッ”と電子音が鳴ります。
 - 初めてご使用になるときや電源プラグを差し直したときは、標準/オートで運転を開始します。お好みにより他の運転モードに切り替えてください。

表示 / 操作部

リモコン



■ 運転中の表示について

- 運転中はディスプレイに周囲湿度を表示します。
オフタイマー設定中は、周囲湿度とタイマー時間を表示します。詳細は各運転モードの説明をご確認ください。

メモ 周囲湿度は本体に内蔵されているセンサーが感知する湿度になります。

◎ 周囲湿度が高い、または低いときのディスプレイ表示

⇒ 周囲湿度が30%以下の場合、[Lo] と表示します。

⇒ 周囲湿度が80%以上の場合、[HI] と表示します。

- ランプの点灯/点滅と消灯は、設定や状態にあわせて切り替わります。詳細は各運転モードの説明をご確認ください。

停止する

■ 運転の止めかた

運転中に本体またはリモコンの『電源』ボタンを押すと“ピーッ”と電子音が鳴って、ディスプレイの表示と全てのランプが消灯して運転を停止します。

運転停止後は、内部冷却のため送風運転を行います。

メモリー機能

- 一度運転を停止させて再びご使用になるときは、停止時の設定で運転を再開します。(オフタイマー設定は除く)
- 電源プラグを差し直した場合はリセットされます。

⚠ 注意



必ず守る

- 長時間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、水タンクと本体(水そう部)の水を捨ててください。
- 電源プラグを抜く場合は、必ず先に『電源』ボタンを押し、《送風運転の停止》を確認してから電源プラグを抜いてください。運転中に電源プラグを抜くと、故障の原因になります。

運転モードを切り替える

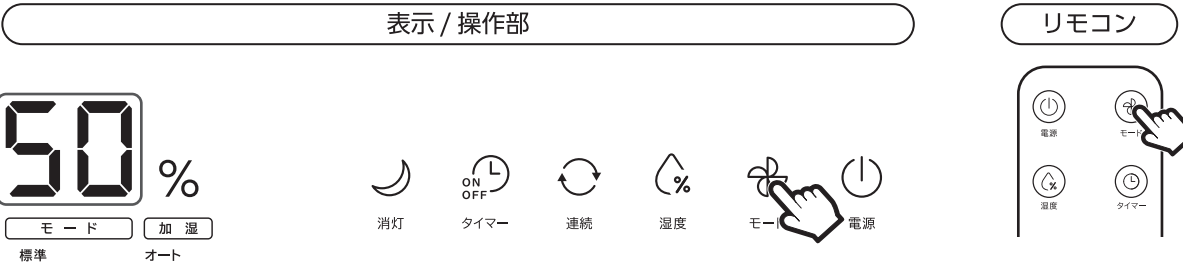
■ 運転モード一覧

	オート	連続
標準	加湿量「中」で運転し、周囲湿度が60%以上になると自動で運転を停止し、湿度が下がると自動で運転を再開します。	加湿量「中」で連続運転します。
のど・肌	加湿量「中」+ヒーター「ON」で運転し、周囲湿度にあわせて、自動で湿度設定を切替えます。	加湿量「中」+ヒーター「ON」で連続運転します。
パワフル	加湿量「強」+ヒーター「ON」で運転し、周囲湿度が60%以上になると自動で運転を停止し、湿度が下がると自動で運転を再開します。	加湿量「強」+ヒーター「ON」で連続運転します。
ひかえめ	加湿量「弱」で運転し、周囲湿度が60%以上になると自動で運転を停止し、湿度が下がると自動で運転を再開します。	加湿量「弱」で連続運転します。

- メモ
- 加湿量は表示しません。
 - ヒーターの「ON」と「OFF」の切り替え時に“カチッ”と音が鳴ります。

■ 運転モードの切り替えかた

運転中に本体またはリモコンの『モード』ボタンを押します。
『モード』ボタンを押すごとに運転モードが切り替わり、設定にあわせて点灯するランプも切り替わります。

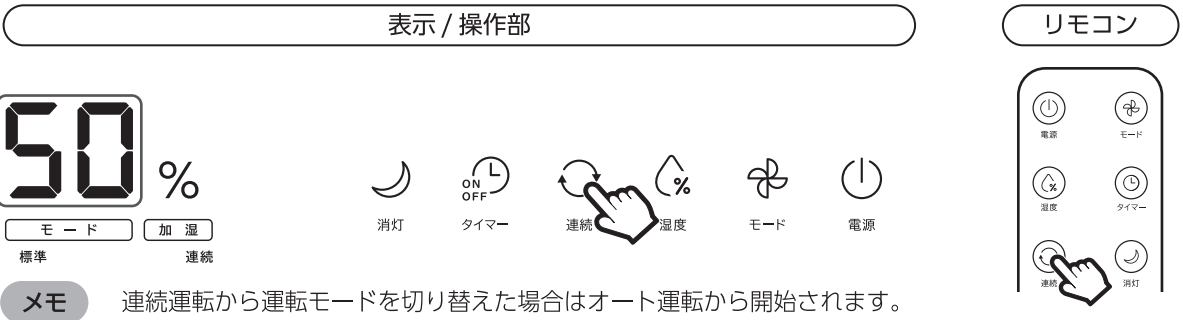


■ 運転モードの切り替わり順

運転モードは次の順番で切り替わります。 → 標準 → のど・肌 → パワフル → ひかえめ →

■ オート運転と連続運転の切り替えかた

オート運転中に本体またはリモコンの『連続』ボタンを押すと、連続運転に切り替わります。
連続運転中にもう一度『連続』ボタンを押すと、オート運転に切り替わります。



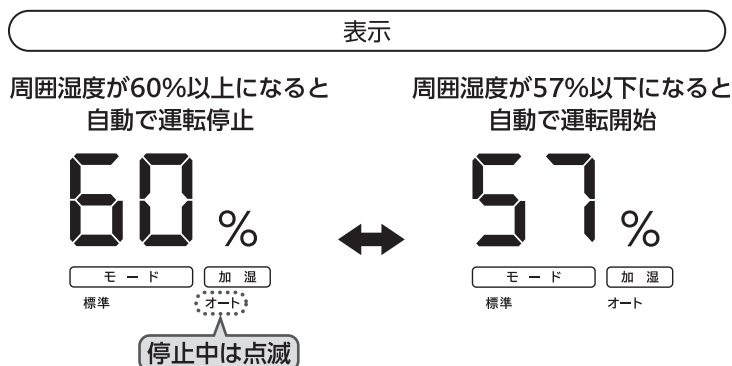
- メモ
- 連続運転から運転モードを切り替えた場合はオート運転から開始されます。

ご使用方法

■ 標準運転について

標準/オート

加湿量「中」で運転し、周囲湿度が60%以上になると自動で運転を停止し、湿度が下がると自動で運転を再開します。



標準/連続

加湿量「中」で連続運転します。

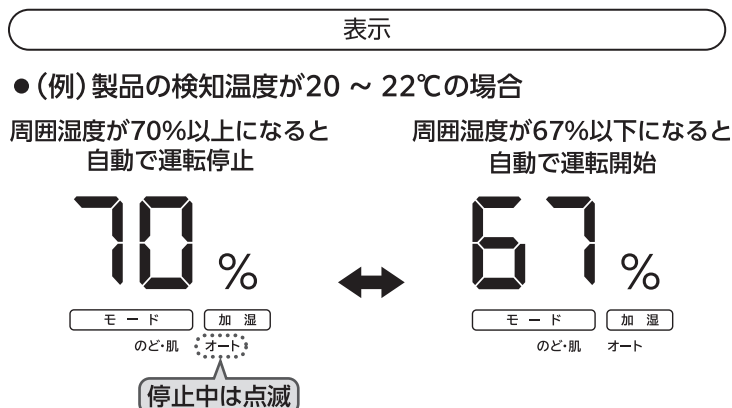


■ のど・肌運転について

のど・肌/オート

加湿量「中」+ヒーター「ON」で運転し、周囲温度にあわせて、自動で湿度設定を切替えます。

※周囲温度は本体に内蔵されているセンサーが感知する温度になります。



のど・肌/連続

加湿量「中」+ヒーター「ON」で連続運転します。



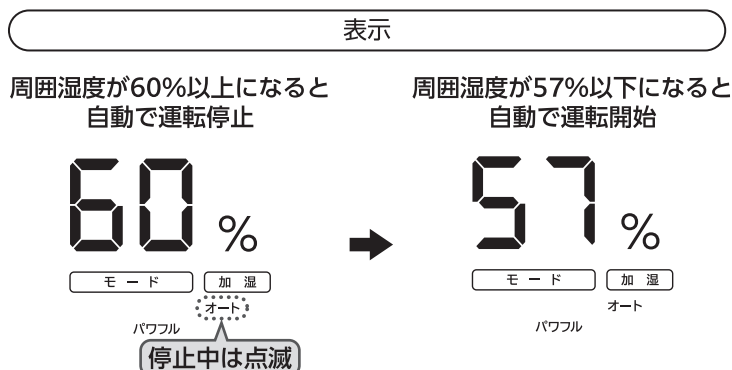
● 周囲温度と設定湿度の関係

設定湿度 \ 周囲温度	19℃以下	20～22℃	23～25℃	26℃以上
60%				○
65%			○	
70%		○		
75%	○			

■ パワフル運転について

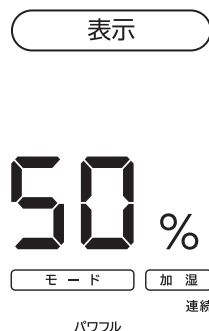
パワフル/オート

加湿量「強」+ヒーター「ON」で運転し、周囲湿度が60%以上になると自動で運転を停止し、湿度が下がると自動で運転を再開します。



パワフル/連続

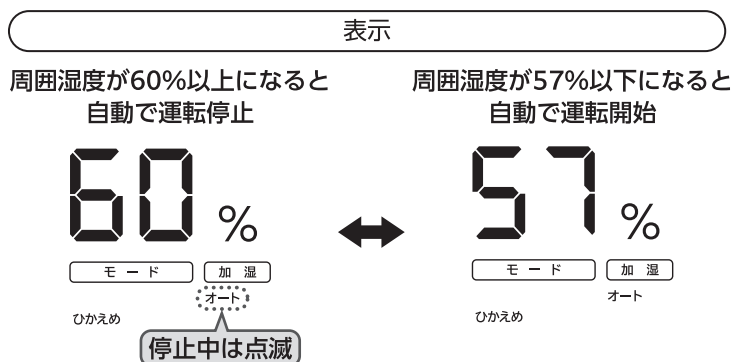
加湿量「強」+ヒーター「ON」で連続運転します。



■ ひかえめ運転について

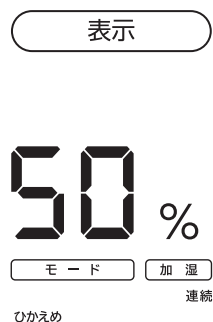
ひかえめ/オート

加湿量「弱」で運転し、周囲湿度が60%以上になると自動で運転を停止し、湿度が下がると自動で運転を再開します。



ひかえめ/連続

加湿量「弱」で連続運転します。



ご使用方法

湿度を設定する

40% ~ 75%の範囲で5%ごとに湿度を設定できます。

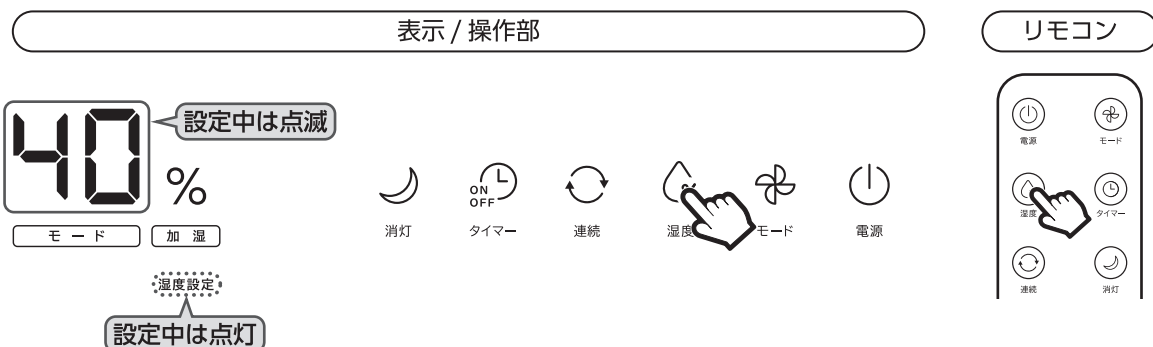
設定した湿度に達すると自動で運転を停止し、周囲湿度が下がると運転を再開します。

■ 湿度設定のしかた

- ① 運転中に本体またはリモコンの『湿度設定』ボタンを押します。

ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。

初めてご使用になるときの電源プラグを差し直したときの湿度設定は「40」%になります。

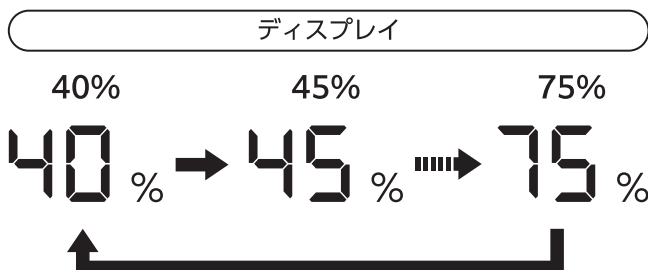


- ② ディスプレイの点滅中に、『湿度設定』ボタンを押して湿度を設定します。

『湿度設定』ボタンを押すたびに5%単位で湿度表示が切り替わります。

ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。

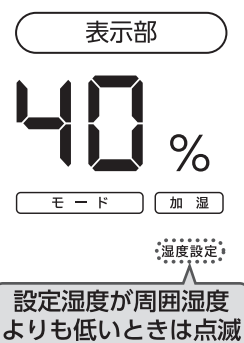
点滅中に『タイマー』ボタンまたは『消灯』ボタンを押した場合は、表示していた湿度で設定されます。



- ③ 湿度を設定したあと、ディスプレイが点滅から点灯に切り替わると、設定完了となり加湿を開始します。

メモ

設定湿度が周囲湿度よりも低いときは、『湿度設定』ランプが点滅し、運転が停止します。
設定湿度が周囲湿度よりも高いときは、次の動作内容にあわせて運転します。



■ 湿度設定動作中のディスプレイ表示

湿度設定動作中は、ディスプレイに周囲湿度を表示して運転します。

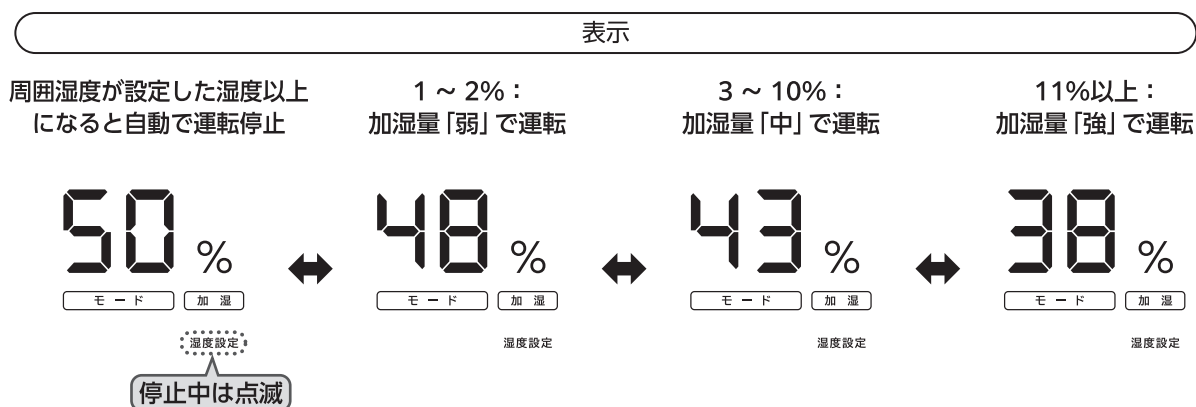
設定湿度を確認したいときは、『湿度設定』ボタンを押すと約5秒間設定湿度の表示に切り替わります。

■ 動作内容

設定湿度と周囲湿度の差にあわせて、次のように加湿量が自動で切り替わります。

設定湿度と周囲湿度の差	加湿運転
設定湿度 ≤ 周囲湿度	停止
1 ~ 2%	弱
3 ~ 10%	中
11%以上	強

● (例) 湿度を50%に設定した場合



■ 湿度設定の解除のしかた

湿度設定を解除するときは、『モード』ボタンまたは『連続』ボタンを押してください。メモリー機能 (P.9参照) に準じたモードでの運転に切り替わります。

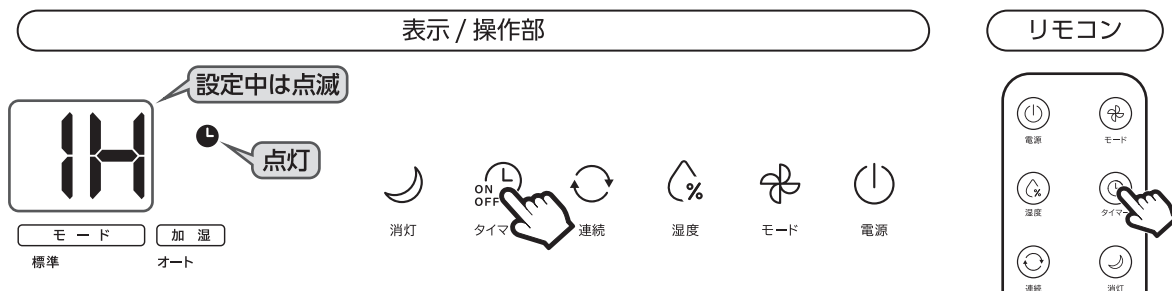
ご使用方法

オフタイマーを設定する

1 ～ 9時間の範囲で1時間ごとに設定でき、設定時間が経過すると自動で運転を停止します。

■ オフタイマーの設定のしかた

- ① 運転中に本体またはリモコンの『タイマー』ボタンを押します。
『タイマー』ランプが点灯して、ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。
初めてご使用になるときや電源プラグを差し直したときの表示時間は「1H」になります。



- ② ディスプレイの点滅表示中に『タイマー』ボタンを押して停止時間を設定します。
『タイマー』ボタンを押すたびに1時間単位で設定時間が切り替わります。
ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。ディスプレイの点滅表示中に他のボタンを押した場合は、表示されていた時間で設定されます。



- ③ 時間を設定したあと、ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると、設定完了となります。
オフタイマーの設定中は『タイマー』ランプが点灯します。

■ オフタイマー設定完了後のディスプレイ表示

オフタイマー設定中は、次のように繰り返し表示します。

残り時間 (3秒表示) → 周囲湿度 (10秒表示)

■ オフタイマーの解除のしかた

オフタイマーを解除するときは、ディスプレイの表示が「-H」になるまで『タイマー』ボタンを繰り返し押してください。

ディスプレイの表示が点滅から周囲湿度表示に切り替わると、『タイマー』ランプが消灯します。

メモ

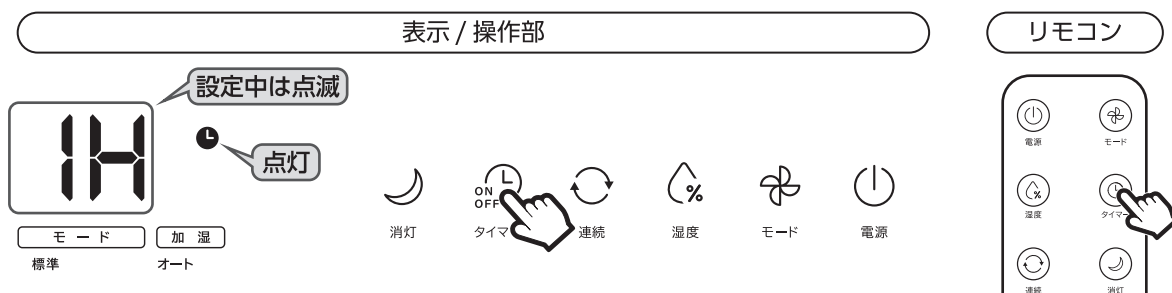
- 1時間経過するごとに残り時間が切り替わって表示します。
- オフタイマーとオンタイマーを同時に設定することはできません。

オンタイマーを設定する

1～9時間の範囲で1時間ごとに設定でき、設定時間が経過すると自動で運転を開始します。

■ オンタイマーの設定のしかた

- ① 待機中に本体またはリモコンの『タイマー』ボタンを押します。
『タイマー』ランプが点灯して、ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。
初めてご使用になるときや電源プラグを差し直したときの表示時間は「1H」になります。



- ② ディスプレイの点滅表示中に『タイマー』ボタンを押して開始時間を設定します。
『タイマー』ボタンを押すたびに1時間単位で設定時間が切り替わります。
ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。

メモ ディスプレイの点滅表示中に他のボタンを押した場合は、運転開始時の運転モードを設定できます。



- ③ 時間を設定したあと、ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると設定完了となり、表示が消灯します。
オンタイマーの設定中は『タイマー』ランプが点灯します。
- ④ 設定した時間が経過すると“ピッ”と電子音が鳴り、記憶された運転モードで運転を開始します。

■ オンタイマー設定中のディスプレイ表示

オンタイマーの設定中は、『タイマー』ランプのみ点灯します。
運転の開始までに残り時間と運転モードを確認したいときは、『電源』ボタン以外のボタンを押してください。

■ オンタイマーの解除のしかた

オンタイマーを解除するときは、ディスプレイの表示が「-H」になるまで『タイマー』ボタンを繰り返し押すか、『電源』ボタンを押してください。

メモ オンタイマーの設定完了後に電源ボタンを押すと運転を開始して、オンタイマーの設定はリセットされます。

ご使用方法

消灯モードを設定する

就寝時などに運転させたまま表示を消灯することができます。

■ 消灯モードの設定、解除のしかた

運転中に本体またはリモコンの『消灯』ボタンを押すと、ディスプレイの表示と全てのランプが消灯します。

もう一度『消灯』ボタンを押すと解除されます。

表示 / 操作部

点灯

(消灯モードOFF)

50 %

モード 加湿
標準 オート



消灯

(消灯モードON)



リモコン



メモ

- 他のボタンを押すとディスプレイ表示が約5秒点灯します。点灯中に操作すると設定を変更できます。
- 消灯モード設定中でも水がなくなると、給水のお知らせと同じ表示になり、表示し続けます。
- 消灯モード設定中に電源を切る場合は、消灯モードを解除するか、『電源』ボタンを2回押してください。

水タンクの水がなくなると

■ 給水のお知らせ

水タンクの水がなくなると『給水』ランプが点滅し、“ピーッピーッ
ピーッピーッ”と電子音が鳴って、自動で運転を停止します。
同時にディスプレイの表示が「-」に切り替わります。

引き続きご使用になる場合は、水タンクに給水したあとに『電源』
ボタンを押して電源を切り、もう一度『電源』ボタンを押してくだ
さい。

表示

点滅



運転中に水タンクを取り外すと…

運転中に水タンクを取り外すと運転を停止し、給水のお知らせと同じ表示に
なります。

引き続きご使用になる場合は、『電源』ボタンを押して電源を切り、もう一度
『電源』ボタンを押してください。

メモ

消灯モード設定時に水がなくなったときは電子音は鳴りません。

お手入れと保管方法

⚠ 警告



必ず守る

- お手入れや点検、保管の際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。感電やケガの原因になります。
- お手入れや点検、保管の際は、本体が十分に冷めてから行ってください。やけどの原因になります。

⚠ 注意



必ず守る

長期間使用しない場合や、お手入れ、保管の際は、水タンクと本体(水そう部)に残った水を捨ててください。

- 水タンクと本体(水そう部)に水が入ったままでお手入れをすると、水が漏れて周囲を濡らす原因になります。
- 水タンクと本体(水そう部)に水が入ったまま保管すると、雑菌やカビが繁殖し異臭の原因になります。

各部のお手入れは週に2回以上行ってください。

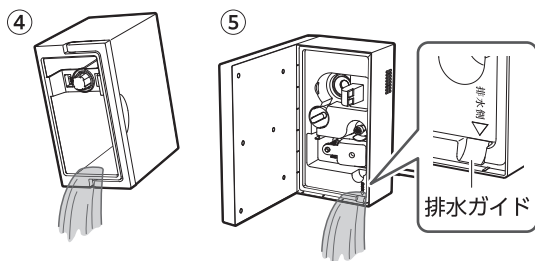
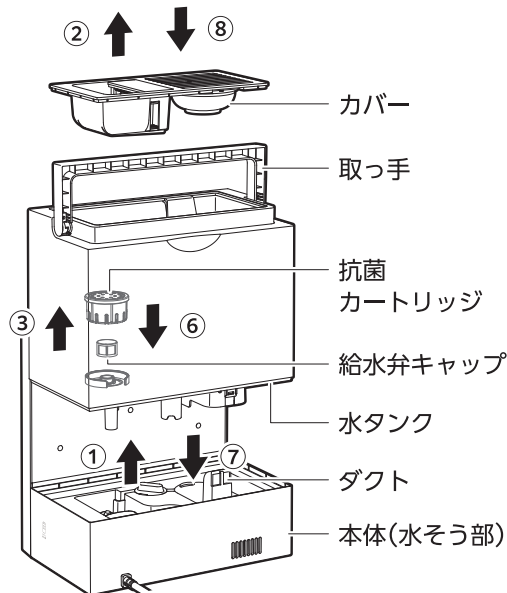
■ 水の捨てかた

- ① 水タンクからカバーを取り外します。
- ② 本体から水タンクを取り外します。
水タンクの取手を持って取り外してください。
- ③ 水タンクから抗菌カートリッジと給水弁キャップを取り外します。
- ④ 水タンクに残った水を捨てます。
- ⑤ 本体(水そう部)に残った水を捨てます。

注意

- 排水ガイドから水を捨ててください。
- のど・肌モードとパワフルモードの停止直後は、本体(水そう部)の水が冷めてから水を捨ててください。
- ダクトから本体内に水が入らないようにご注意ください。
水漏れや故障の原因になります。

- ⑥ 抗菌カートリッジと給水弁キャップを水タンクに取り付けます。
- ⑦ 水タンクを本体(水そう部)に取り付けます。
- ⑧ 水タンクにカバーを取り付けます。



■ 本体のお手入れ

柔らかい布で乾拭きしてお手入れしてください。
汚れが落ちにくいときは、薄めた台所用中性洗剤に浸した柔らかい布で汚れを拭いたあと、洗剤が残らないように固くしぼった柔らかい布で拭き取ってください。

仕上げに柔らかい布で乾拭きしてください。

- お手入れには塩素系・アルカリ系の洗剤や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。
- お手入れのあとは水分をよく拭き取り、陰干しをして十分に乾かしてください。

● 本体(水そう部)のお手入れ

歯ブラシなどの柔らかいものでこすって汚れを落としてください。

- 金属製のブラシなどでこすると、傷が付き、故障の原因となりますので、使用しないでください。
- ヒーター部、超音波振動板の汚れを取り除く際は、衝撃を与えないよう丁寧に取り除いてください。
- ヒーター部のお手入れ時はヒーターカバーを取り外してください。

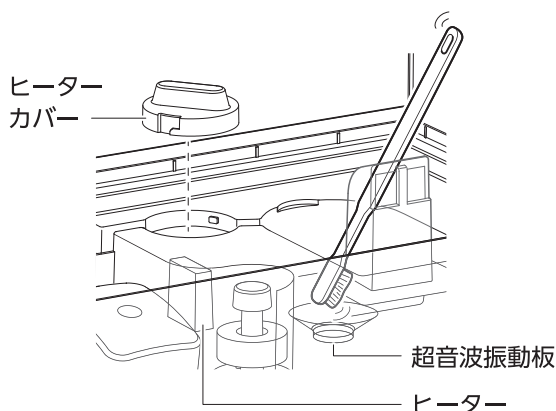
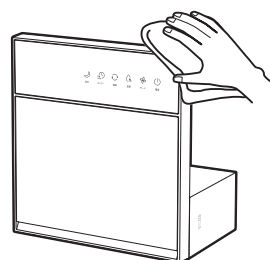
注意 運転停止直後はヒーターが高温になっているため、直接触れないでください。

● ヒーターカバーの取り外しかた

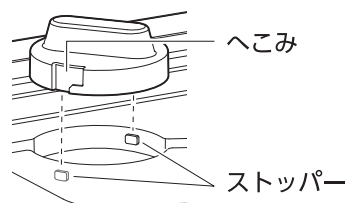
ヒーターカバーを反時計回りに止まるまで回し、持ち上げて取り外します。

● ヒーターカバーの取り付けかた

ヒーターカバーのへこみとストッパーを位置をあわせて取り付け、時計回りに止まるまで回して取り付けます。



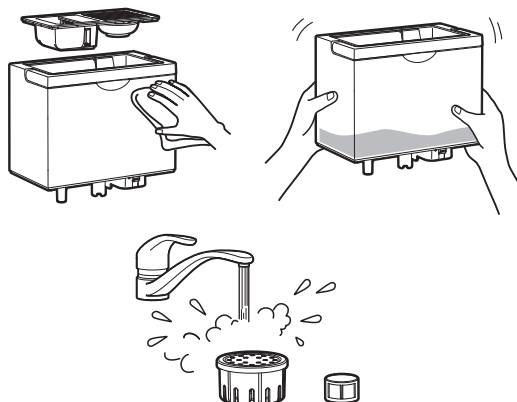
取り付ける ←→ 取り外す



■ 水タンクとカバーのお手入れ

- 本体と同様のお手入れをしてください。
- 水タンクの内側は少量の水を入れて軽く振り洗いして水を捨てます。
汚れが落ちにくいときは、薄めた台所用中性洗剤を使用してください。
洗剤が残らないよう、しっかりすすいでください。
- 抗菌カートリッジと給水弁キャップは水タンクから取り外し水洗いしてください。

メモ 抗菌カートリッジは約6か月を目安に交換してください。



■ 保管方法

- 水タンクと本体（水そう部）の水は必ず捨ててください。
- お手入れのあとは各部の水分をよく拭き取り、陰干しをして十分に乾かしてください。
湿ったまま保管すると、カビの発生や異臭、故障の原因となります。
- リモコンからボタン電池を抜いて、ボタン電池の電極（+/-）にセロハンテープなど絶縁性のテープを貼って保管してください。
- お買い上げ時の箱に入れるか、ポリ袋などで包み、直射日光を避け、湿気の少ない所に保管してください。

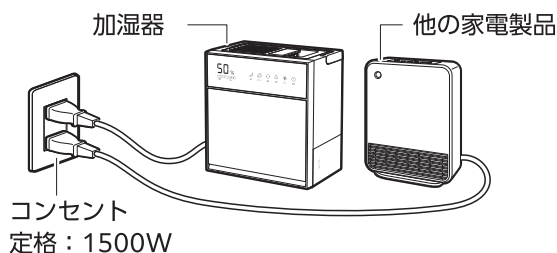
コンセントの点検

- コンセントなどの配線器具には寿命があります。

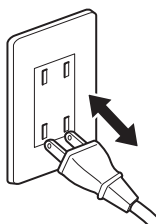
経年劣化、または誤った使いかたにより焼損や火災の原因になる場合があります。

誤った使いかたの例

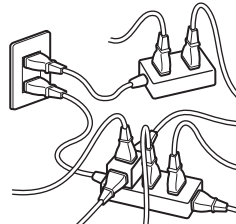
- ✕ 定格容量いっぱいで使用する



- ✕ 電源プラグを斜めに抜き差しする



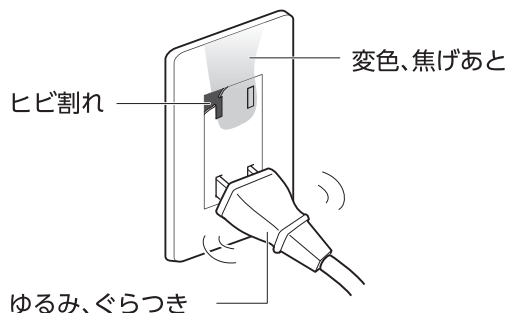
- ✕ タコ足配線する



- 下記のようなコンセントはすぐに交換をしてください。

- 電源プラグの抜き差しがゆるい。
- 電源プラグやコンセントが触れられないほど熱い。
- 表面が変形（ふくれ、ヒビ割れなど）している。
- 表面が変色、焦げあとがある。

そのまま使い続けると焼損、火災の原因となります。



⚠ 注意



禁止

破損または曲がっている電源プラグを無理矢理コンセントに差し込まないでください。
焼損や火災、事故の原因となります。

故障かな?と思ったら

スリーアップカスタマーサポートにご連絡いただく前に、
下記項目の確認をお願いします。

症 状	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	電源プラグが外れている。	電源プラグをコンセントに接続してください。
運転しない	- 本体またはリモコンの『電源』ボタンを押していない。 - 周囲湿度が設定湿度を超えている。	- 本体またはリモコンの『電源』ボタンを押して運転を開始してください。 『加湿』ランプが点滅している場合は、運転モードまたは設定湿度を変更してください。
運転が停止した	- 水タンクの水がなくなった。 - オフタイマーが作動して停止した。 - オートモードで周囲湿度が60%以上になっている。	- 水がなくなると『給水』ランプが点灯し、警告音が鳴ります。水タンクに給水してください。 - 引き続きご使用になる場合は、『電源』ボタンを押してください。 - 周囲湿度が下がるまでお待ちいただくか、連続モードでご使用ください。
異臭がする	水タンク、本体(水そう部)などが汚れている。	「お手入れと保管方法」に従って、定期的にお手入れをしてください。
湿度が上がらない	- 適用床面積を超えた部屋で使用している。 - 部屋の窓やドアが開いている。	- 適用床面積内でご使用ください。 - 窓やドアを閉めてご使用ください。
本体から“カチッ”と音がする	のど・肌モードまたはパワフルモードの運転時や運転モードの変更時にヒーターが作動または停止した。	本体内部のヒータースイッチの作動音になります。異常や故障ではありません。
リモコンで動作しない	- ボタン電池が消耗している。 - ボタン電池の向き(+/-)が間違っている。 - 本体の受信部にリモコン送信部を向けていない。または本体の受信部とリモコン送信部の間に障害物がある。 - 本体とリモコンとの距離が離れている。 - 本体のリモコン受信部またはリモコンの送信部が汚れている。	- 新しいボタン電池に交換してください。 - ボタン電池を正しい向きに入れ直してください。 - 障害物を取り除き、リモコン送信部を本体の受信部に向けてください。また、誤作動などが発生する場合は、本体の設置場所を変更してください。 - 操作距離は直線で約3mです。操作位置または本体の設置場所を変更してください。 - 本体の受信部とリモコンの送信部のお手入れをしてください。
運転を停止しても吹出口から風がでている	運転を停止した直後である。	運転を停止したあとは、内部冷却のため送風運転を行います。
表示が消えている	消灯モードを設定している。	本体の『消灯』ボタンを押してください。
本体周囲が白くなる	ミストのミネラル成分が付着している。	本体の設置場所を変更するか、加湿量を減らすことで改善される場合があります。

※ 上記の点検を行っても異常がある場合は、スリーアップカスタマーサポートまでご連絡ください。

※ 当社ホームページにも「よくあるご質問」を掲載しておりますのでご覧ください。